

1. 活動報告（事務局 記）

—6月1日（日）① 田植え準備：田んぼ周囲の草刈りとヨケジの溝あげ

② 蛍散策道の草刈り

③ エコアップ：ため池の島周辺草刈とイグサの間引き

参加者は会員11名と山大長谷川君と松本君の応援で合計13名でした。

—6月14日（土）稲作体験「田植え」が盛大に行われました。

約4畝半の田んぼの中に80数人の人が田植えに興じました。

参加者はつくる会22名（中に宇部市環境政策課課長/課長補佐/係長/主任含む）・親子自然観察隊18名とジュニア/シニア4名・二俣瀬子ども会27名と幼児3名・山大学生応援7名・小学校校長/教頭先生市民センタ長/公民館長総勢85名のそれぞれの応援を得て盛大に田植えの行事が済みました。

田植え前の神事で、安全と収穫の願いをして、田植え終了後には「ひざ癒し」の植えみて行事を女性会員のつくったおむすびと猪鍋にて苦労を癒しました。

—6月22日（日）総会で追加活動分ですが9名の参加者を得まして実施しました。

① エコアップ：草原ゾーン川の中の黄あやめの駆除と川中の整備、蓮田・ため池ゾーンのカヤツリ草間引き

② 維持管理作業：市道ビオトープ側の土手草刈と東屋西の檜の木繁茂選定

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—7月23日（水）宇部地域環境パートナーシップ事業による見学

◎行 事

※6月28日（土）13:30 UNCCA総会が宇部市福祉会館であり会員のつくる会として参加をお願いしています。

—7月6日（日）維持活動（エコアップ・草刈）

—7月19日（土）維持活動・須賀河内川葦刈・田んぼの草取り（親子自然観察隊と生物多様性応援団との協働活動）、午後継続活動は須賀河内川の事前調査

3. 来訪者の声

今月はありません

4. 会員の声【農作業今昔】（原田満洲夫 記）

今年もビオトープで「稲作体験」が始まった。そもそもは二俣瀬小学校児童が農産地域の子どもでありながら、農業に全く関心がなくなったことから、里山ビオトープ二俣瀬をつくる会が小学校の教育の一環を担って稲作を指導するつもりであった。当時は学校も土曜日は登校日で午前中授業で我々のボランティア活動とマッチして日課の中に入れていただくことが出来た。

3年目ぐらいから学校も土曜日が休日となり我々の活動も平日には変更できず学校の実習田的役目がなくなって、つくる会が単独の稲作づくり・収穫祭のみのイベントとして行うようになった。

里山ビオトープ二俣瀬のコンセプトに“環境教育の場”とあり、現在はここで親子自然観察隊の自然環境教育の場として稲作体験を進めている。

同じ稲作を体験するのも、現在の機械化・農薬・化学肥料農業では環境教育にならないため、最低昭和20年代の人間が手で植え・手で草を取り・手で刈り取り、肥料に至っては厩肥を頂き散布する等の稲作のほんの5分の1位の作業を体験していただいている。

昔は家族あげて農繁期には朝早くから夜遅くまで子どもながら我慢して農業の手伝いをしたものであるが、この田植え体験（多くの植え手。準備万端のフィールド）それでも音を上げる子・他の遊びをする子も多く、子供だけでなく親の方たちもあまり関心がない態度も見られる。

さらに古くは、田んぼも牛・馬を使った粗お越し、代掻き。苗においては苗代での種まき、育苗後の手で苗取り・苗まき等々数えれば昔の方法は幾多もあるが、それまでやればナンセンスということになる。

昭和20年代、我々の子どもを振り返れば今はずいぶん機械化が進みほとんど体を使わなくて農業が出来るようになった。お蔭で稲作での純益が全くなくなり、あちこちで放棄地がみられ大きな農業だけでなく政治問題にもなっている。

我々の世代は逆を言えば体を酷使したおかげで忍耐力や持久力が付いたものである。現在の子どもたちがこの体験をいくらかでも味わって根性の持てる人間になってほしいと思うものである。

5. 親子自然観察隊 (田植え) (管 哲郎 記)

心配されたお天気も田植えにふさわしい曇り空、参加者も今年は特に多く、観察隊員や家族を始め、ビオトープの会員、二俣瀬子供会とご家族、山口大学の本校及び工学部の学生、二俣瀬小学校、市役所環境政策課、公民館の関係者などよりの参加をいただき、80名を超す参加者となりました。

9時より始められ、今井会長の挨拶、原田副会長による田植えの方法や決まり事などの説明をいただいたのち、今井会長による”神事”が神主を代行して今年初めて行われました。田植えに先立ち、現地に造られた祭壇に向かって参拝し、田植えの安全祈願、豊作祈願のお祓いをおこなったのち、お神酒を水田に奉納いたしました。参加者全員も会長の参拝に合わせ拍手を打ち礼をして神事を無事終了しました。

原田事務局長により昔の田植えの用具と使用方法の説明がありました。菅笠と蓑をまとい、定規を用いて稲を植えてゆく方法を実演していただき大変勉強になりました。

ほぼ全員が田んぼに入り、一列に並び田植えを行いました、昨年とは違う並びで植え付けられましたが、以前とは比べ物にならないほどうまく息が合い、田植えはスムーズに行われ、11時過ぎに無事終了いたしました。

一部のスペースでは昔の定規を使って田植えが行われ、見事に植え付けが行われました。

田植えの初日には”ひざいやし”という慰労会が行われます。観察会でも朝から会員によるお料理がつくられ、田植えが終わるとさっそく全員にお料理がふるまわれました。今回は、会員有志の寄付による”イノシシ肉”を使ったシシ鍋とおむすび、お漬物がふるまわれましたが、たちまち鍋もおむすびも完食！楽しくおいしく頂きました。

最後に会員による”田植え唄”が披露され、盛況のうちに田植え行事を終了しました。調理を担当された会員の皆様や、準備に奔走された皆様、ご苦労様でした！

親子自然観察隊 (6月14日 田植え) に参加した親子の感想

★藤井哲平くんの感想

どぼーんどぼーんって(苗を)投げるのが楽しかった！足いっぱいけがしてるところが、痛かった。

★藤井さんのお母さんの感想

すごく楽しかったようです。田植えはすごく楽しみにしていたので、連れていってもらえてよかったです。

昨日は近所の田んぼを見て「てっくんもこれしたよねー」って言ってました。カエルを捕まえて飼ったりしています。ありがとうございました(*^*)

★野田怜くんのお母さん

こんにちは(^-^*)/先日はお世話になりました。

田植えは何度か経験してるので息子は喜んで参加しました。ミノと傘、田植えの歌は初めてでした。映画(のぼうの城)で田植えのシーンが、たしか笛や太鼓の音や歌に合わせてしてるのを思い出しました。演出かと思ってました(笑)テンポに合わせて植えてましたよ。歌に合わせて植えると楽しいかもしれませんね。

知らない事を沢山教えて頂きありがとうございます。

味噌汁は具沢山でとても美味しかったです。シシ肉やわらかかったです。



6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(18) ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus*

サナエトンボ科 *Gomphidae* Banks <ヒメサナエ属> *Sinogomphus* May

流水系のサナエトンボ、しかも溪流の最上流部付近で成虫はすごしますので、みなさんの目に触れることはめったにありません。日本特産種のトンボで、北海道を除く地区に見られますが、東北、北陸地方や中部山岳地帯では少ないようです。

先月（5月）月上旬より羽化が始まり、8月末まで見られますが、やはり7月ごろに多く見られます。羽化は河川の中流～下流部で行われるようで、ヤゴは成熟するに従って流れを下って行くようです。あるいは大雨で流されるのかもしれませんが。

筆者もいまだ羽化を目撃したことがありません、広い河川のどの部分で羽化しているのか、今年も調査しているところです。今月（6月）には羽化も終わってしまいます。羽化殻はある河川の中流部でたった1個だけ発見しましたが、あまりにも数が少なく、もっと別な場所で羽化しているに違いないと、その下流部を探していますが、下流部はさらに延々と10km以上もあるため、難航しています。

このトンボもオスは比較的簡単に見られます、溪流の中に入ればポツポツと小石や岩の上に静止していますが、メスは溪流沿いの草むらや木の葉や枝先に止まっていることが多いです。筆者も未だ多くのメスに遭遇していません。

写真のように体長4センチほどの細くかわいいトンボです。きれいな溪流で眺めるトンボには心が癒されますよ。そっくりさんでは、”オジロサナエ”が一緒に棲息しています。



ヒメサナエ (♂)



ヒメサナエ (♀)

ヒメサナエの腹の先端部（尾部付属器）はオニのツノのように三角錐ですが、オジロサナエはウシの角のようにS字形に曲がっています。

(写真右) オジロサナエ尾部付属器

(写真左) ヒメサナエ尾部付属器



7. 会よりの連絡事項（事務局より）

(1) 6月22日の打ち合わせ事項

①7月19日の生物多様性活動応援団の受け入れ体制について協議しました。7月6日（日）正式決定します。

またこの19日午後 親子自然観察隊（須賀河内川）の事前調査を行う事になりました。昼食を持参し参加ください。

②8月の親子自然観察隊予定日変更について

8月2日（第一土曜日）は翌日の3日（日）に変更します。

(2) エンジン付き草刈機の寄付について

吉富匡一郎会員より草刈機2台（中古品）の寄付がありましたのでお知らせします。

8. 編集後記

六月は、田植えの季節です。14日に、ビオトープの田植えがありましたが、私は8日に開催された、“小野湖の水を守る会”主催の田植えにも参加しました。小野の田圃の広さは、ビオトープの1/4程度でしょうか。地元の方が所有されている棚田の一枚を借りての稲作となります。周りは、棚田です。

小野の参加者数は70人程度、子供と大人が半々ですが、子供は小学校低学年以下が殆どでした。小さい子供が多いのでどうなることやらと思いましたが、和気あいあいと終了しました。田んぼが小さいこと、四班に分けて作業を行ったこと、定規を用いての田植えだったのでマイペースで作業ができたことが理由でしょう。

田植えが終わり、次の作業は稲刈りだそうです。除草の話は出てこなかったもので、おそらく田圃の所有者が、除草等の手入れをされるのでしょう。無農薬であればと思うのですが、それを望むのは難しいのではないかと思います。一帯の田圃の用水は、上の棚田から下の棚田へ伝って入っているようです。田植えをした棚田専用の水路はありません。この一枚だけ無農薬という訳にはいかないでしょう。

幸いなことに二俣瀬ビオトープは、用水が川や沢から直接流入しているため、上流の田圃の影響を受ける可能性が少ないようです。ゼロとは言えませんが。私は、環境重視の農業の基本は、無農薬・有機栽培だと思っています。ビオトープの田圃は、これを実現させるのに適した環境にあります。しかし、このためには維持管理すなわち除草および害虫の除去が、必要不可欠です。梅雨が過ぎれば暑い夏が到来し、稲以上に水田雑草も成長します。皆さん、お願いですから積極的に作業に参加してください。

（ 前田 歳朗 記 ）